

<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

平成 30 年 9 月 3 日発行

No. 7 校長 矢口 仁



高き希望に（第五中学校だより）

人生は敗者復活戦 — 蔦監督の言葉 — 校長 矢口 仁

七転八倒

つますいたりころんだりするほうが

自然なんだな にんげんだもの

相田みつを



夏休みが終わりました。自分の目標・計画は達成できましたか？今日から活動が再開します。生活のリズムを整え、気持ちを集中して日々の授業、部活動、行事に前向きに取り組んでほしいと思います。

さて、この夏の大きな話題の一つは、甲子園での金足農業高校の活躍でしょう。ドラフト候補の吉田投手を中心とした抜群のチームワークで、公立の農業高校ながら、決勝まで進出しました。決勝では敗れたものの、そのプレーだけでなく、試合の後に全身で校歌を歌う姿にも感動しました。さわやかな高校球児たちでした。

私はその姿から、昭和 50 年代に甲子園に旋風を起こした、徳島県立池田高校を想起しました。県立池田高校は、蔦文也監督の独特の指導で強豪校になっていきました。昭和 49 年春の選抜大会。たった 11 名の部員で準優勝に輝き「さわやかイレブン」と呼ばれて、一躍全国に名が広がり、その後、春に二回、夏に一回優勝しました。

蔦監督の指導は、打撃中心ということで有名です。金属バットが採用されたことから、上半身を筋力トレーニングで徹底的に鍛え、打球を遠くへ飛ばす「やまびこ打線」を育てました。当時、筋トレを多くやることは、身体がかたくなってけがをしやすくなるので、推奨されていませんでした。しかし、金属バットの特性を見抜き、そこを徹底的に指導していったという先見性の持ち主でした。

彼の言葉の中に「人生は敗者復活戦。負けるのは不名誉ではない。不名誉なのは、負けてだめな人間になることだ。」というものがあります。人生をうまく言い当てていると思います。人生はうまくいくことよりも、むしろ、思い通りにいかないことの方が多くあります。負けることから学び、そこから自分をさらに大きく成長させることのできる人間が、より人間らしいのだと感じます。

相田みつをさんも、「負け方が本当に身に付いた人間が、人の世の悲しみや苦しみに耐えて、ひとの胸の痛みを心の底から理解できる温かい人間になれるんです。」（『負ける練習』より）と言っています。

酷使された吉田投手の肩や腰が心配ですが、彼が今回の結果をどのように受け止め、今後どのように活躍していくか、その敗者復活戦を応援したいと思います。